



# 学びの虹

東京都立鹿本学園

校長 庄司 伸哉

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

## 臨時休業の御理解・御協力への感謝！

3月2日から始まった臨時休業につきまして、突然の決定にも関わらず保護者の皆様や放課後等デイサービス事業所の皆様方から御理解・御協力を賜り感謝しております。本校は肢体不自由、知的障害の教育部門を併置する都内最大規模の特別支援学校です。平常時には児童・生徒、教職員をはじめスクールバス乗務員や放課後等デイサービスの職員等を含めて1日に800人もの方が出入りする学校です。これだけの人が出入りする施設は、それだけ新型コロナウイルスへの感染リスクが高く、お子様の学校でのお預かりも真にやむを得ない場合とし、できるだけ御家庭等で見守っていただきました。

また、卒業式に関しては東京都教育委員会の指示に基づき、全ての都立特別支援学校において来賓、保護者は卒業式には参加しないこととし、短時間で式を実施することとなりました。万一、卒業式までに本校の児童・生徒や教職員に感染者が出てしまうと、最小限度で実施する卒業式すらも中止せざるを得ない恐れがあったため、教職員に対しては毎朝の体温測定、入校、入室時の手指消毒、1時間ごとの室内換気を指示し、その徹底を図っています。当初、卒業学年の1年下学年の児童・生徒も卒業式参加を予定しておりましたが、送る言葉等の練習もできず、感染防止を図る観点からも参加を取りやめさせていただきました。卒業式の写真や動画の撮影はいたしますが、卒業生の保護者の皆様方に晴れの姿を直接御覧いただけず、心苦しいばかりです。新型コロナウイルス感染が一日も早く終息すること切に願うばかりです。4月に学校が円滑に再開されるためにも、どうか御寛恕のほどお願い申し上げます。

## 来年度体制への御理解・御協力を！

鹿本学園は平成26年4月に開校して6年が経過しました。令和2年度は鹿本学園が新しく生まれ変わる節目の年となります。なぜ新しくなるかということをお説明いたします。

東京都教育委員会は、東京都全体の教育水準の向上や教員の資質能力の向上、人材育成を図るため教員の定期的な異動を実施しております。都立特別支援学校においては引き続き勤務する年数が6年に達したものは原則異動することと定められております。つまり、本校開校時から勤務してきた教員は原則異動となり、令和2年度にはどの学部も学年も教員が大幅に変わることになります。

また、今まで知的の小中学部と肢体不自由教育部門の併置校は都内では鹿本学園だけでしたが、令和2年4月から、本校と同じ学部構成の「花畑学園」が誕生します。肢体不自由の城北特別支援学校と知的小中学部の南花畑特別支援学校が発展的統合をして開校します。

花畑学園にはすでに本校PTAの統合の実例やノウハウを提供してきております。鹿本学園はこれまで近隣の新設校開校時にも支援を続けてきました。大規模併置校である鹿本学園開校時の学校運営に携わった教員に花畑学園の開校支援に当たらせることは鹿本学園が果たすべき重要な使命であると考えております。

本校の指導の継続性に関しては十分な引継ぎができるよう教員に指示しているところですが医療的ケアをはじめ、担任教員等との連携につきましては、上記の状況を踏まえ保護者の皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げます。保護者の皆様と教職員が協働して共に新しい鹿本学園を創造してまいりましょう。

鹿本学園校長 庄司 伸哉

# 卒業に寄せて

## S部門 小学部

6年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。6年生は小学部の最上級生として、上手に後輩を引っ張ることができました。運動会では、応援団で見事な応援を披露して盛り上げたことが印象に残っています。移動教室では、5年生と一緒に夢の島のBumBに行ってきました。6年生は、昨年度の経験も活かして落ち着いて過ごし、5年生と合同で行ったカローリングでもしっかりとリードができました。修学旅行はディズニーランドへ。快晴で夏のような陽ざしの中、素敵な楽しい思い出をたくさんつくることができました。

みなさんはこの1年間日々の授業においても、自分の力で様々なことに取り組むことや、自分から意欲的に取り組むことに、一生懸命努力してきました。取り組む時間が延びたり、練習を重ねて、難しかったことができるようになったりと、本当にたくさんのごことを頑張ることができました。みなさんがこれまで身に付けた力は、これからの学校生活につながっていきます。中学部でも頑張ってください。応援しています！

S部門 小学部6年担任一同（文責 市川 智道）

## N部門 小学部

6年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。小さかったみなさんが、心も体も大きく成長し、小学部卒業を迎えました。6年間日々の学習や行事に一生懸命取り組みました。

毎日の朝体育や体育で元気に身体を動かし、強い身体を作り、運動会や連合運動会で、精一杯力を出し切りました。友達や先生に自分の気持ちを伝えたり、受け止めたりする力を身に付け、虹輝祭では、友達と協力し、自分の役割を自信をもって発表することができました。移動教室や社会見学、修学旅行では、社会のルールやマナーを知り、場に応じた行動ができるようになりました。修学旅行では、レストランでの食事、買い物など友達と一緒に行動することができました。日常生活では、毎日の積み重ねで、自分のことは自分で行う姿勢を身に付け、できることがたくさん増えました。

23名全員、小学部の全課程を修了しました！自信をもって、中学生の一步を踏み出してください。いつまでも応援しています。

N部門 小学部6年担任一同（文責 住 京子）

## S部門 中学部

御卒業おめでとうございます。3年間の中学部での学校生活で、みなさんは心身ともに大きく成長しました。一日一日の繰り返しの中では感じることも難しくても、3年間の行事の様子、日々の学習の様子を思い返していくとその成長を感じます。プールがあれほど苦手だったのに笑顔で楽しめるようになったこと、机上の教材に興味を示して手をサッと伸ばすようになったこと、笑顔で舞台上がって演技できたこと、毎日欠かさず係活動が続けることができたこと、歩くのがとても好きになったこと、身振りも加えながら意欲的に言葉でコミュニケーションがとれたこと、生徒会長を自信をもって務めることができたこと、英語が好きになって積極的に学べるようになったこと、スクーリングで行事に参加ができたこと、休まずに訪問教育の授業を受けることができたこと、それぞれの頑張りや成長につながった3年間でした。楽しく学ぶ場となった修学旅行や応援でも盛り上がったスポーツフェスタも仲間と一緒にしました。悩みや困難は仲間や御家族の皆さんと協力して乗り越え、楽しみは分かち合えた中学部での生活が、自分の夢に向かって飛び立っていく皆さんの大切な1ページとなれば嬉しいです。これからも応援しています。

S部門 中学部3年担任一同（文責 加藤 直彦）

## N部門 中学部

中学部3年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。32名が3年の年月を経て大きく成長し、高等部へと旅立っていきます。みなさんは温かく素直な心を持ち、友達と協力しながら大きく成長してきました。

スポーツフェスタでは、自分の力を最大限に発揮し、全員が活躍しました。個人で頑張った徒競走、友達と協力した学年競技やリレー、そして「躍動」「絆」「挑戦」をテーマに全員が協力してやり遂げたマ스ゲーム、全員が輝いていました。虹輝祭では、ダンスや合奏、劇、合唱等を行い、一人一人の日頃の学習成果を発表できました。全員で協力し合い、達成感を得られたことは、大きな自信となりました。山梨県の移動教室での皆で登った昇仙峡、美味しかった桃やほうとう、京都府への修学旅行での京都水族館、太秦映画村、Tシャツ作り、金閣寺、様々なことを経験し、多くのことを学びました。この思い出は、二度と同じことのできない宝石のような輝く時間です。

高等部に進学したら、新しい出会いがみなさんを待っています。多くのことに挑戦し、さらに成長してください。私たち中学部3年教員一同は、みなさんの御成功を祈るとともにいつもどこにいてもエールを送っています。

N部門 中学部3年教員一同（文責 増山 陽介）

## S部門 高等部

じっとしていることを許してもらえないかのように、社会は目まぐるしく変化していきます。みなさんが卒業するこの時も社会は大きな問題に直面しました。でも世の中がどのように変わっても、鹿本の仲間と共に過ごした時間が皆さんを大きく成長させたことは、誰も疑わないと思います。

「人が自らの足で立てるのはところどころに見えないほどに小さな椅子がきちんと用意されているからで、誰もが日々誰かの見えないほど小さなケアに支えられている。」という言葉は、誰にも当てはまると思います。

支えられていることを忘れるほど、人と関わることが「自立」なのかもしれません。だとしたら、みなさんは鹿本でしっかりと「自立」に向けて取り組んできました。これからも、社会人としてもっともっと周りの人に寄り添ってください。

新しい社会で、たくさんの人の中に笑顔のみなさんがいる光景を、いつも見られることを願っています。

御卒業おめでとうございます。

S部門 高等部3年担任一同（文責 木下 徹）

### 1月～3月のアクシデント・インシデント報告

【アクシデント報告 1件】

転倒：1件 転落：0件 誤食：0件 遊出：0件 他傷：0件

【インシデント報告 18件】

本校では、職員朝会や全校連絡会を通して、事故の起きた原因や対策について共通理解を図り、同じような事故が起きることを防いでいます。

事故の原因としては、教職員の児童・生徒の実態の理解不足や、環境設定、指導者の支援方法などが挙げられています。授業の流れを確認する中で、予測される動きを打ち合わせ、環境設定や支援方法が適切であるかどうかを確認すること、いつもと違う様子が見られたときには、複数の目で確認し共通理解をもって接することなどをさらに徹底し、事故防止に努めていきます。

今年度の事故総数は、7件でした。昨年度より減少はしていますが、まだまだ課題があります。新年度を迎えるに当たり、今年度の事故を見直し、事故の起きやすい時期や原因、対策について共通理解を図り、万全の指導体制で、臨めるようにしていきます。